4月24日（月）原井手大場水神の由来看板を設置

菊池川大場堰からの水田かんがい用水施設の管理をしている原井手管理委員会が、同堰近くにある原井手大場水神の由来を紹介する看板を設置しました。

同水神は、五穀豊穣や水難事故防止などの神として地元住民から親しまれています。看板の文章は、同水神の起源などの研究を続けている、神奈川大学の小馬（こうま）徹（とおる）教授が監修したもので、これまでの経緯や今から約300年前に行われた原井手工事の際に安全を祈願していたこと、今でも毎年7月に祭りが行われていることなどが説明されています。

同委員会では「由緒ある水神さんなので、近くに来た際にはぜひ立ち寄ってもらい、たくさんの人にこの水神さんを知ってもらいたいです」とのことです。

原井手大場水神（右奥）隣に設置された看板（左）

4月25日（火）花房小学校で「人権の花」運動の種を交付

花房小学校で、熊本地方法務局山鹿支局と山鹿人権擁護委員協議会が主催する「人権の花」運動の「人権の種」交付式があり、児童や関係者などが参加しました。

子どもが互いに協力しながら植物を栽培することで子どもたちの情操を豊かにすることなどを目的に行われる運動で、同校であった交付式では、同協議会の田中政次会長が「いじめが問題になっています。この運動を通していじめをしない、させない子になってください。そしてみんなで協力して秋にきれいな花を咲かせてください」とあいさつ。同局山鹿支局の森杉博光支局長が、ひまわりやコスモスなど6種類の花の種を代表の岡本紘樹くん（6年）に渡しました。

子どもたちは、交付された種を学年ごとの花壇に植え、それぞれが思いやりを持って育て、開花を目指します。

また、秋にはその花から取れた種をエコ風船に付けて飛ばす運動も計画されています。

花の種を受け取る代表児童

4月25日（火）JA菊池酪農女性部と熊本酪農協同組合女性部が牛乳消費拡大をPR

牛乳の消費拡大にと、JA菊池酪農女性部と熊本酪農協同組合の女性部から6人が、乳製品を使ったPRをしました。

PRは昼休み時間を利用して行われ、菊池市役所1階ロビーには、チーズコロッケやチーズケーキ、ミルクういろうなど牛乳を使って作った9品が並びました。訪れた市民などに試食してもらいながら「簡単に家庭でもできますよ」とチラシと一緒にレシピも配られました。

JA菊池旭志中央支所酪農女性部の平山頼子さんは「今日は牛乳を食べてもらおうと来ました。このPRが牛乳の消費拡大になればと思います」と話されました。

この日は菊池市役所のほかにも、菊池地域振興局、合志市役所合志庁舎、同西合志庁舎、大津町役場、菊陽町役場でも同じ取り組みがありました。

来庁者に料理を紹介する会員たち（右）

4月26日（水）泗水町の養生市場出荷者協議会々員67人をエコファーマーに認定

道の駅泗水にある養生市場に野菜などの農産物を出荷している「養生市場出荷者協議会」の会員のうち、67人が県からエコファーマーとして認定され、泗水ホールで認定証が授与されました。

エコファーマーとは、農薬や化学肥料を減らすなどして環境に配慮した農法の導入計画を立て、その計画を知事が認定した生産者のことです。この日、熊本県菊池地域振興局の潮崎昭二農業振興課長から、代表の荒木庸介会長（泗永）に67人分の認定証が手渡されました。

荒木さんは「質の良い野菜と、質の良い生産者を目指して、今後は全会員の認定を目標にしたいです」と話されました。

現在、養生市場では、認定会員の農産物に目印となるシールをはったり、認定会員の顔写真を店内に掲示したりするなどして、安全で安心な農産物のPRが行われています。

代表して認定証を受け取る荒木さん（左）

5月3日（憲法記念日）・4日（国民の休日）GWジュニアサッカーフェスティバルIN菊池

隈府小学校と菊池北小学校を会場に、ジュニアサッカー大会がありました。

大会には、県内から11チーム、福岡や長崎などから5チーム、約300人の小学生が参加して熱戦が繰り広げられました。

子どもたちのきびきびとしたプレーに、保護者などのサポーターからは盛んな拍手が送られていました。また、会場には熊本県サッカー協会の藤家理事や、同第4種（小学生）荘口委員長、九州レフリー協会の倉田委員も応援に駆けつけ、将来の日本サッカーを担っていくであろう子どもたちに熱い視線を送っていました。

この大会は、菊池市のクラブチームでタイケンスポーツクラブを主宰する来海明彦さんが、平成15年から県内外の優秀なチームを招いてサッカーの技術向上を目指し、選手、コーチ相互の親睦を深め、更には菊池市の観光も楽しんでもらおうと毎年開催されているものです。

約300人が参加してあったジュニアサッカー大会

5月8日（月）菊池の自然を活かそう会と菊池さくら保育園児がボランティア植樹

菊池の自然を活かそう会の会員10人と菊池さくら保育園の園児25人が、ボランティアで菊池公園一角の花壇に花の苗を植えました。

植えたのはマリーゴールドやナデシコ、ペチュニアの苗約1,500株で、同会員の門川雪子さんが経営する店で花いっぱい運動などの活動に賛同する人たちから集めた寄附金などで購入されました。

会員たちが草取りをしながらスコップで掘った穴に、園児たちが次々と苗を置き、小さな手で土をかぶせながら一株ずつ丁寧に植えました。参加した園児たちは「楽しかったです。今度はお家の人と一緒に見に来たいです」と話してくれました。

同会は「行政に頼らず市民の力で草のない花いっぱいの観光地にしよう」と約20人で活動しているボランティア団体で、中川靖子会長は「このような自然を活かした経験から、子どもたちにはまちを愛する気持ちを持ってもらいたいです。今後は小学生や中学生にも、この活動の輪を広げていきたいです」と話されました。

一緒に花の苗を植える会員（右）と園児たち

5月9日（火）おおいた国体菊池事務所開所式

平成20年に大分県で開催される第63回国民体育大会「チャレンジ！おおいた国体」の菊池事務所が、菊池市役所前の旧熊本地方法務局菊池出張所に置かれ、関係者など約50人が出席して開所式がありました。

同大会のボート競技が、菊池市の斑蛇口湖ボート場で開催されるために菊池市に事務所が置かれたものです。式では石川公一大分県副知事が「大分らしい大会にしたいと考えています。成功に向けて菊池市の皆さんのご協力をお願いします」とあいさつ。玄関脇に関係者が看板を掲げました。

阿南寿和所長は「おおいた国体まであと872日。菊池市国体推進室のつもりで職員一同頑張りますので、ご支援よろしくお願いします」と話されました。

同所には、大分県国民体育大会・障害者スポーツ大会局の職員5人が常駐し、リハーサル大会と本大会へ向けての計画づくりや準備作業などの業務が行われます。

事務所の玄関脇に看板を掲げる石川副知事（中）と江川国体局長（右）、めじろん（左）

5月11日（木）劇団「湯た～っと」が寸劇で交通安全をPR

菊池警察署の有志で作る劇団「湯た～っと」が、菊池市原のきくちふるさと水源交流館で「楽しみながら交通ルールを学んでもらおう」と寸劇を披露しました。

劇の内容は、飲酒運転が原因の交通事故で亡くなった老夫婦が、天国の警察官に「じいちゃん、横断歩道の真ん中で止まっとでけんたい」などと言われながら考え方を改めていくもの。交通ルールのポイントを説明するなかにも、吉本新喜劇をほうふつさせる演技が、集まった地元老人会のメンバーたちの笑いを誘っていました。

寸劇は、同署交通課の坂本信一さんや菊池地区交通安全協会の講習指導員など3人が演じ、坂本さんは「今後も菊池署管内の各施設などで、月に1回以上の公演を目指し、交通安全を訴えていきたいです」と意気込みを話されました。

お年寄りたちに寸劇で交通安全を訴える、劇団「湯た～っと」のメンバー